

予 算 要 求 資 料

令和 4 年度 6 月 補正 予算

支出科目 款：農林水産費 項：農業費 目：園芸特産物対策費

事業名【新】岐阜県施設園芸用燃油高騰対策支援事業費補助金

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

農政部 農産園芸課 野菜果樹特産係 電話番号：058-272-1111(内2867)

E-mail：c11423@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 補正要求額 20,000 千円 (現計予算額： 0 千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
現 計 予算額	0	0	0	0	0	0	0	0	0
補 正 要求額	20,000	0	0	0	0	0	0	0	20,000
決定額									

2 要 求 内 容

(1) 要求の趣旨 (現状と課題)

燃油価格の高騰により、経費に占める燃油費の割合が3割と高い、施設園芸農家及び茶生産者の経営が圧迫されている。その対策として、農家と国が1：1で積み立てる補填金により、価格高騰分が補填される施設園芸等燃油価格高騰対策事業（以下、高騰対策事業）への加入を進めているが、加入時に必要な積立金を準備することが農業者の負担となっている。

(2) 事業内容

高騰対策事業加入者に対し、積立金の負担軽減を図るため、直接燃油価格高騰分（積立金）を直接補填して支援する。

(3) 県負担・補助率の考え方

補助率：補填金の1/2

価格高騰による県内施設園芸農家、茶生産農家の経営負担を軽減する必要がある。

(4) 類似事業の有無

国庫事業：なし

3 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
補助金	20,000	積立金補填支援にかかる経費
合計	20,000	

決定額の考え方

4 参考事項

(1) 各種計画での位置づけ

無

(2) 国・他県の状況

- ・愛知県の施設園芸省エネ化緊急対策事業（R3年度12月補正、2月補正）
- ・静岡県の施設園芸等燃油価格高騰対策緊急支援事業（R3年度12月補正、2月補正）

(3) 後年度の財政負担

来年度以降の高騰対策事業への要望を精査し、必要に応じて予算要求を行う。

(4) 事業主体及びその妥当性

事業実施主体：高騰対策事業に加入している生産者

高騰対策事業加入者に対し、積立金の負担軽減を図るとともに、高騰対策事業の加入を促進する事業効果が見込める。

県単独補助金事業評価調書

新規要求事業

継続要求事業

(事業内容)

補助事業名	岐阜県施設園芸用燃油高騰対策支援事業費補助金
補助事業者（団体）	施設園芸や茶生産を営む農業者 （理由）高騰対策事業への加入は、施設園芸や茶を営む農業者に限られるため。
補助事業の概要	（目的）高騰対策事業加入者に対し、積立金の負担軽減を図る。 （内容）高騰対策事業に加入している施設園芸農家や茶生産者に対し、直接燃油価格高騰分（積立金）を直接補填して支援する。
補助率・補助単価等	（内容）補填金の1/2 （理由）価格高騰による県内施設園芸農家、茶生産農家の経営負担を軽減する必要がある。
補助効果	燃油価格高騰の影響を受けにくい経営構造への転換を図ること
終期の設定	終期 令和4年度 当面の燃油価格高騰への対策のため。

(事業目標)

<p>・終期までに何をどのような状態にしたいのか 省エネ推進計画に基づく、取組農家の燃油使用量の確実な削減。</p>
--

(目標の達成度を示す指標と実績)

指標名	事業開始前 (R)	R2年度 実績	R3年度 目標	R4年度 目標	終期目標 (R4)	達成率
	取組農家の燃油使用削減率	0%	/	/	5%	

補助金交付実績 (単位：千円)	H30年度	R元年度	R2年度
	/	/	/

(これまでの取組内容と成果)

令和 2 年度	<p style="color: red;">令和5年度当初予算にて追加</p> <p>指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___ %</p>
令和 3 年度	<p style="color: red;">令和5年度当初予算にて追加</p> <p>指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___ %</p>
令和 4 年度	<p style="color: red;">令和6年度当初予算にて追加</p> <p>指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___ %</p>

(事業の評価)

<p>・事業の必要性(社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断) 3：増加している 2：横ばい 1：減少している 0：ほとんどない</p>	
(評価) 3	<p>経費にかかる燃油費の割合が高く、燃油高騰により経営が圧迫されている施設園芸農家の省エネ機器の導入を支援することにより、持続的な経営を図ることができる。</p>
<p>・事業の有効性(指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか) 3：期待以上の成果あり(単年度目標100%達成かつ他に特筆できる要素あり) 2：期待どおりの成果あり(単年度目標100%達成) 1：期待どおりの成果が得られていない(単年度目標50~100%) 0：ほとんど成果が得られていない(単年度目標50%未満)</p>	
(評価)	
<p>・事業の効率性(事業の実施方法の効率化は図られているか) 2：上がっている 1：横ばい 0：下がっている</p>	
(評価)	

(今後の課題)

<p>・事業が直面する課題や改善が必要な事項 燃油価格高騰の影響を受けにくい経営体質への改善を進める必要がある。</p>
--

(次年度の方向性)

<p>・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか 燃油の価格状況と、施設園芸農家や茶生産農家の経営状況を注視しながら、必要に応じて検討を行う。</p>
--